横浜音祭り2013連携イベント

YOKOHAMA
OTOMATSURI 2013

よこはまクラシック音楽の地産地消のススメ

［スピーカー・アンプ視聴＋デザイン展］

Vol.3
入場無料

2013年11月3日(日)11:00〜18:00 初日のみ18時迄です。ご注意下さい。／11月4日(月・祝)11:00〜20:00／11月5日(火)11:00〜20:00

元町あかいくつスタジオ 231-0861 横浜市中区元町5-203 元町スカイビルB1

後援：横浜アーツフェスティバル実行委員会／一般社団法人 赤い靴記念文化事業団／株式会社 ベイサイドネット　お問合せ：sound.yokohama@gmail.com

ワークショップ開催！「スマホ用スピーカー」

クラフト紙筒を使って、世界に1つのスマホ用スピーカーをつくろう！
絵を描いたり、塗ったり、貼ったり…
オリジナリティあふれる作品を講師の指導のもとで制作し、お持ち帰りいただけます。

◎11/4(月・祝)11:00より1時間
◎参加費 600円／1人(材料費込み)
◎小学生以下は親子でご参加ください。
◎先着20名／事前にお申込下さい。
sound.yokohama@gmail.com

■展示01：40W モノーラルパワーアンプ

オーディオ技術誌である MJ 誌の執筆者である安井章先生の指導の下、先生の作品よりも更にブラッシュアップしました。現代の最高のアンプの一つであると自負します。

■展示02：Wavecor WF110WA01 +Beston RT003C 4インチ 2WAY スピーカー

中国の新進メーカー Wavecor 社のネオジウムマグネット使用でロングストロークでもリニアリティーを確保したユニットを使用したシステムです。ツイーターには台湾の Beston 社製のリボン型のユニットを使いこのユニットの特徴である円形の「リボン素子」によりリボンツィーター特有の広い音場を、さらに広くし、また人間の可聴帯域 20kHz を大きく上回る 40kHz まで再生ができるシステムです。

■展示03：Peerless 830869+Audax TW034X0 8インチ 2WAY スピーカー

デンマーク Peerless 社の強靭で軽量なノーメックス・コーンを採用したユニットにキレのよい押し出しの見事なフランス Audax 社のソフトドームツイーター TW034X0 を搭載したシステム。前回出品よりも更にネットワークを改良することにより、豊かで締まりのあるスピーカーの奥に拡がる音楽を楽しめます。

●アンプ／スピーカー：佐藤 正司(さとう しょうじ)
横浜市在中。84年、日本大学工学部建築学科卒業、横浜の中小建設会社である見上工業株式会社入社。住宅、公共施設の建設・設計にも携わる。一級建築士、一級建築施工管理技士。77年より新日本フィルと東京都交響楽団の定期会員。その後にある方の自宅を手がけた事から01年より神奈川フィルの定期会員に半ば強引にさせられる。10年12月、朝日新聞折り込みの「定年時代」に神奈川フィル応援の記事を掲載される。11年に Facebook で神奈川フィルの応援ページを立ち上げ、13年7月まで応援サークルの運営、管理人をしていた。11年、川崎国際環境技術展に神奈川デザイン機構のブースに「環・境・建・設・中 PART2」展の一環で金属製の吸音体を作成し出品。オーディオ機器の製作販売のデモとして、また地元オーケストラ、神奈川フィルの素晴らしさも知って頂くため企画した「よこはまクラシック音楽の地産地消のススメ」は、11、12年に続き三回目。

近代西洋文化の原点・ここ横浜から、西洋音楽＝クラシック音楽の楽しみ方を追求する企画展、「よこはまクラシック音楽の地産地消のススメ」。3回目の今秋は、地元のエンジニア、デザイナーが手がけたスピーカーとアンプで、横浜にちなんだ名演を視聴していただけます。

www.facebook.com/sound.yokohama twitter.com/soundyokohama
「よこはまクラシック音楽の地産地消のススメ」実行委員会 sound.yokohama@gmail.com

●紙筒

大判ポスターなどを丸めて輸送するための紙で出来た筒。素材はクラフト紙。今回は、紙の特性「切れる」「描ける」「貼れる」を生かして、スマートフォン用スピーカーをつくるワークショップの材料として使います。

●アルミくず

アルミの加工をするときに出る切りくず。これは、神奈川県のアルミ加工工場からでた廃材で、通常は捨てられる物を再利用する「アップサイクルデザイン」の材料となります。圧縮して固めると見た目も触った感じも面白くなり、音を吸い込む効果もあります。

●鉛つき合板

ベニヤ板に鉛の板を張り付けたもの。本来はレントゲン室のX線が部屋の外に漏れないようにするために作られました。響きのない鉛とその重さで、スピーカーの箱に使うと、箱の不要な振動を防ぐことができ、スッキリと透明な音のスピーカーを作る事ができます。

●視聴音源

地元のオーケストラ「神奈川フィルハーモニー管弦楽団」の名演をはじめ、iTuneで管理しているCD8千枚からリクエストにお応えします。迫力あるステージが目の前に広がる、コンサートホールのような臨場感を是非体感ください。お持ちいただいたCDからの再生も、時間の許す限り対応します。

●スピーカーシステム

アンプから送られた音声信号を音に替える装置。一般的なのは音声信号をコイルに流して、発生する磁力で空気を動かす方式、つまりリニアモーターカーが音楽に合わせて小刻みに前後に振動している。そこに振動板を付けた方式になります。大きなスピーカーほど大きな音と低い音が出ますが、苦手な高い音専用に別に小さなスピーカーを一緒に付けたスピーカーシステムを今回提案します。

●ハンダごて

鉛とスズの合金であるハンダは溶け出す温度が低い。この性質を利用して電子部品や電線を、ハンダごてを使って組み合わせてゆきます。電熱線で熱した「こて先」という先の尖った棒で、作業にあわせて、細いもの、太い物を用います。

●基盤

電気信号をいろいろな形に変える電子回路を1枚にまとめたもの。様々な形の細長い銅の箔を小径のように貼り付けてあり、そこに電子部品を取り付けることで電子回路が出来上がります。

●真空管

ガラスのチューブの中に電極を入れて真空に密封したもの。電極を暖めると離れた電極と電極の間に電気が流れます。この現象を利用して小さな音を大きくしたり、数を数えたり計算したり様々なことができます。チューブの中の光は、真空管アンプならではなの音楽の豊かさを演出してくれます。

■横浜工場夜景的・真空管アンプ

澄んだガラスチューブの中のフィラメントが妖しく光る真空管で工場のジオラマのようなアンプを作ってみました。真空管独特の豊かな音色と、真空管が醸し出すロマンティックな雰囲気は、聴こえる音楽が更に芳醇なあじわいになると思います。また真空管から放出される熱を使ってアロマポットを加熱。ミニ工場夜景と一緒に、香りも楽しんでみてはいかがでしょうか。部屋の明かりを暗くして、ゆったりとした時間をお楽しみください。

●真空管アンプ：柏原 政彦(かしわばら まさひこ)
横浜市在中。76年、東京造形大学デザイン学科卒業後、東京芝浦電気株式会社(現在(株)東芝)意匠(デザイン)部に入社。以後、27年間、音響機器、映像情報機器、通信機器、業務用システム機器、家電機器等のデザインに従事。2002年に同デザインセンターを早期退職し、エコデザインプランナーとしてリスタート。04年「原宿エコデザインセンター」オープン。05年から湘南工科大学、08年から愛知県立芸大にてエコデザインを担当。06年より(社)かながわデザイン機構でエコデザイン啓発活動を推進。飼っているオカメインコは四代目。名前は、元気なビタミンカラーのシナモンイエローから「C(シー)ちゃん」。部屋の壁紙は破られパソコンのキーも片っ端からはがされるわ、ちょっと元気すぎるのが困りモノだが、それでも毎日パワーをもらっている。

●ボンド

接着する場所や物によっていくつもの種類がありますが、スピーカーで使用するものは、木工用ボンドと呼ばれる水性(水に溶ける)です。固まってしまえば水には溶けず、固まる前は水に薄まる。このボンドは酸っぱい匂いがします。通常は固まるのに丸1日かかります。

●ファブリック(布)

しなやかで、やぶれにくく、自由な形をつくり、繰り返し使えるファブリック(布)は、インテリアやファッションの様々な分野で使われています。スピーカーという固い木の箱にまとう事で、そのたたずまいを劇的に変化させる、まるで魔法のような素材です。

●グラスウール

スピーカーユニットの後ろ側から出る音の「こもり」を押さえるために箱の中の入れる吸音材。グラスウールはガラス繊維の固まりで、吸音材の一種。音のエネルギーを吸い込み、素早く熱に変えることができます。

■スピーカーサーフェイスデザイン

存在感のある大きさのスピーカーを、自分らしくカスタマイズできるサーフェイス(表面)のデザインを提案します。オリジナル性はもちろんしながら、振動をおさえ、音のこもりを解消させる機能もあります。

■インテリアプレゼンテーション

カーテン、ソファ、クッションなどのファブリック(布)とスピーカーをコーディネイトしたインテリアをご紹介します。自分の部屋でリラックスして音楽を楽しむ気分でご覧ください。

●デザイン：加賀田 恭子(かがた きょうこ)
横浜市在中。92年女子美術短期大学グラフィックデザイン科卒業後、同大学専攻科宣伝計画専攻修了。株式会社佐藤卓デザイン事務所(東京)、株式会社プラビス・インターナショナル(東京)、エムアイイーデザイン(神奈川)、Planet Ads and Design(シンガポール)に勤務後、現在(社)かながわデザイン機構にて「半デザイン／半育児」の案配でなんとか日々をこなす。主な作品発表は、「インフィニティ・ウエア」(東京)、「インフィニティ・ウエアII」(ロンドン)、「International Womans Designers Exhibition」(ソウル)、「ディスプレイオーナメントボディ・es」青山スパイラルギャラリー(東京)、オペラ「乙和の椿」「こうもり」(福島)、ミュージカル「ミケ・ラン・ジェロ」(神奈川)、「MY LITTLE EARTH 展」(東京)、「TAKUMI+WAZA 展」(神奈川)など。